

I - 3 湘南都市圏域

湘南都市圏域は、5市3町（平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町）で構成され、県土の中央南部に位置しています。

1 都市づくりの目標

山なみをのぞみ、海と川が出会い、 歴史を生きし文化を創造する都市づくり

湘南のなぎさや相模川、丹沢の山なみの遠景などの自然資源や相模湾沿岸に広がる旧別荘などの歴史・文化的資源に恵まれた「湘南都市圏域」では、貴重な地域資源を広域的に保全・活用し、県土のうるおいの軸として育むとともに、広域的な交通基盤の整備と合わせた都市機能の集積などにより、地域の価値や魅力をいっそう高め、優れた環境と地域力を備えた都市づくりをめざします。



湘南のなぎさ

資料) 神奈川県砂防海岸課

2 概況と課題

(1) 湘南の美しいなぎさの保全

湘南のなぎさは、その美しさや温暖な気候により、別荘・保養地や海洋レクリエーションの場として多くの人々を惹きつけ、「湘南文化」をはじめとする地域ブランドを生み出してきました。

しかし、海岸においては、海浜の侵食が著しく、高潮や津波などの自然災害に対する防災性の低下が課題となっています。

また、白砂青松の海岸風景を形成する松林において松枯れがみられることや塩害による被害などにより、美しい景観の喪失が課題となっています。

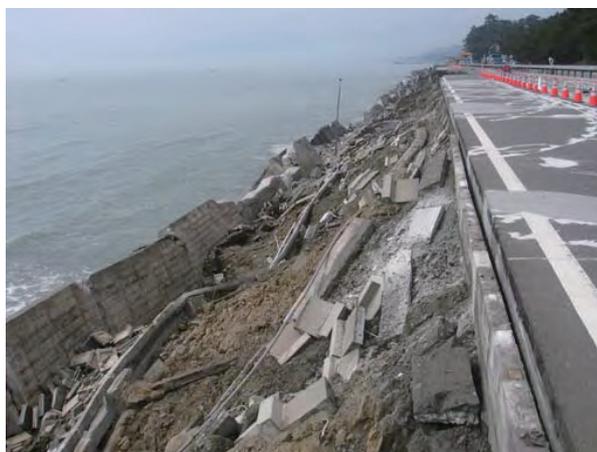
このため、山、川、海の連続性を踏まえた侵食対策や、多様な担い手による松林の管理を通じて、美しいなぎさを保全することが必要となっています。

■ 白砂青松の海岸風景



資料) 神奈川県藤沢土木事務所

■ 2007(平成19)年9月台風9号の高波による被害状況(二宮海岸)



資料) 西湘海岸保全対策検討委員会

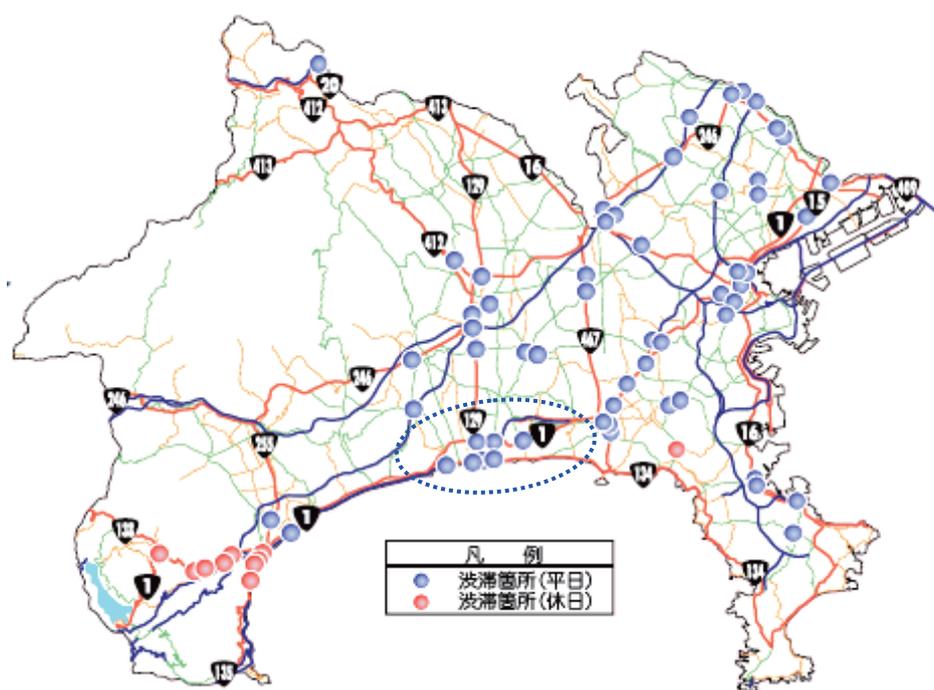
(2) 交流連携を促進する幹線道路網の整備

新東名高速道路をはじめとした新たな自動車専用道路の整備や、全国との交流・連携の新たな窓口となる「南のゲート」では、「東海道新幹線新駅」の誘致活動が行われるなど、今後、広域的な交通利便性のますますの向上が期待されます。

一方、地域の道路交通の現状として、地域を分断するように流れる相模川の橋の周辺などで、慢性的に渋滞が発生しています。また、夏には湘南海岸を訪れる観光客により、沿岸の幹線道路で激しい渋滞が発生しています。

このため、地域分断や交通のボトルネックの解消に向けた幹線道路網の整備のほか、公共交通の利用促進による渋滞の緩和が必要になります。

■ 県内の渋滞箇所【2007(平成19)年度末】



資料) 神奈川県道路協議会「神奈川のみちづくり 平成19年度達成度報告書」

■ 夏の国道134号の渋滞(片瀬東浜付近)



資料) 神奈川県道路協議会

(3) 企業の操業環境保全と産業活力の維持向上

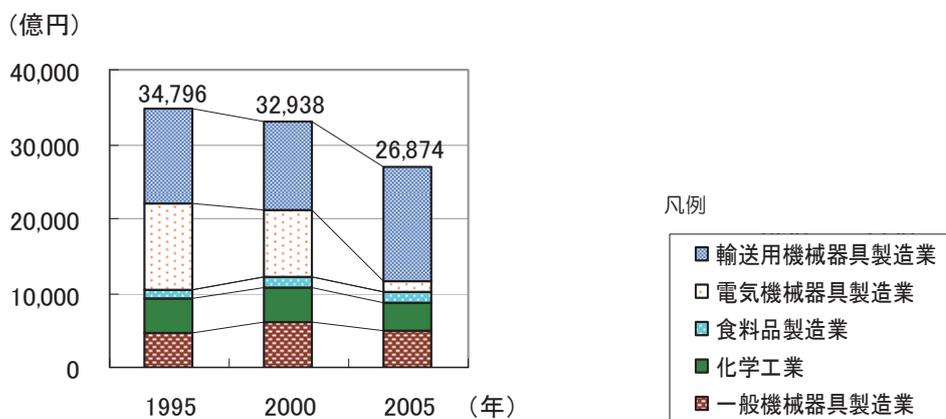
東海道を中心に古くから道路・鉄道が整備され、製造業をはじめとした企業の立地が進んでおり、研究開発機関や大学なども集積しています。

また、新東名高速道路やさがみ縦貫道路、国道246号バイパスなど新たな自動車専用道路の整備が進められており、産業ポテンシャルのますますの向上が期待されます。

一方、既存の産業用地においては、近年、大規模工場の撤退がみられるなど、工場が減少傾向にあり、製造品出荷額も減少傾向にあります。また、工場跡地が商業施設や住宅へ転換することで、土地利用の混在が発生しており、操業環境の悪化が懸念されます。

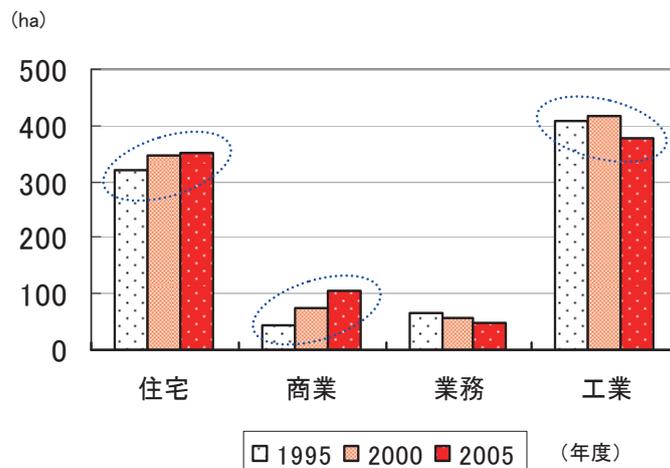
このため、工場の操業環境の保全や産業ポテンシャルを生かした企業の立地促進など産業活力の維持、向上が必要になります。

■ 製造品出荷額の推移(湘南都市圏域)



資料) 経済産業省「工業統計調査」

■ 準工業・工業地域での土地利用推移(湘南都市圏域)



資料) 神奈川県都市計画課「都市計画基礎調査」

(4) 湘南海岸に形成された良好な住環境の保全

湘南海岸の沿岸地域においては、海の魅力や温暖で過ごしやすい気候により、古くから別荘地、保養地が形成されるとともに、ゆとりある敷地を有する閑静な住宅地が形成されてきました。しかし、住宅地においては、年々、敷地の細分化が進み、屋敷林が減少するなど、良好な居住環境の保全が課題となっています。

■ 閑静な住宅地の例(藤沢市鵜沼松が岡)



資料) 神奈川県都市整備課

3 基本方針

「環境共生」の方針

地域ブランドを構築・発揮する魅力ある都市空間の形成

<複合市街地ゾーン>

- 相模湾沿岸地域の旧別荘地などにみられる、低密度でみどり豊かなゆとりのある住宅地においては、地区計画などにより敷地の細分化を防ぐとともに、建て替え時には防災上必要な道路空間を確保するなど、湘南の海に近接する良好な生活環境の維持・形成を図ります。
- 地域の拠点をはじめとする鉄道駅周辺に、住宅、商業・業務施設、公共公益施設などの都市機能を集約するとともに、郊外における市街地の拡大を抑制することで、中心市街地の利便性を高めます。
- 大学や研究所などの集積を生かし、さらなる学術研究機関の立地誘導を進めるとともに、これらと連携した企業の研究開発や、新たな産業の創出などを行うことができる都市的環境の形成を図ります。
- 鉄道・バスなど環境に優しい公共交通機関や自転車を積極的に活用することで、交通渋滞の緩和を図るとともに、環境負荷の少ない交通体系の構築を目指します。
- なぎさを中心とする水とみどりに調和・共生する環境を形成するため、海岸地域においては、県、沿岸市町が互いに連携しながら住民や企業との協働により、砂防林の保護育成を進めることで、美しい都市景観を形成する白砂青松の風景の保全を図ります。また、山、川、海の連続性を踏まえた海岸侵食対策、海浜利用や周辺環境にも配慮した津波対策、高潮対策を進めることで、安全で快適な市街地を形成します。
- 境川、引地川のように流域の都市化が進んだ河川において、河道や洪水調節施設の整備とあわせ、雨水貯留浸透施設の整備などの流域対策を行うことで、水害の発生を抑制するとともに、被害を低減します。
- 内陸側においては、ゆとりある住環境を形成するとともに、既存の大学・研究機関の立地や工業団地などの産業集積、幹線道路の整備による広域連携の機能を生かして、産業振興施策との連携を図りながら、新たな企業の立地を誘導することで、産業活力のある市街地の形成を図ります。
- 既存の産業用地において、産業構造の転換などにより発生した企業跡地については、住宅などへの転換による土地利用の混在により、操業環境が悪化しないよう、地域の実情に応じて地区計画などを活用することで、操業環境の維持、保全を図ります。
- 大磯港などの港を拠点とした地域の個性ある発展のため、イベントなどの活動を通じ、港の資産を生かした地域の活性化や魅力の向上を図ります。

海と山の魅力を融合させる土地利用<環境調和ゾーン>

- 丹沢の「山」の魅力と湘南の「海」の魅力が接し、融合する地域として、さがみ縦貫道路、新東名高速道路、国道246号バイパスなどの新たな自動車専用道路については、周辺環境への影響に配慮しながら整備を進めるとともに、新設されるインターチェンジ周辺においては、計画的に産業用地を創出し、企業の集積を誘導します。
- 農林水産業の振興などの観点から、既存集落の活力や生活環境の維持が必要な場合には、周辺地域の市街化を促進しない範囲で、地区計画に基づく土地利用の整序誘導や、地域の実情に応じたモビリティの確保などを図ります。
- 畜産、施設園芸など、生産性の高い都市農業を活発化させるとともに、多様な担い手による耕作放棄地の解消や、都市と交流するふれあい農業を展開することで、農地の保全、活用を図ります。
- 大磯丘陵や丹沢山地の麓などに広がるやまの辺の里地里山などの自然的環境は、人々にうらおいや憩いを与える貴重な地域資源として、所有者、地域住民、企業など多様な担い手により保全・再生を図るとともに、身近な自然とのふれあいの場や公園として活用を図ります。

新たな魅力を生み出す山や森林等の保全・活用<自然的環境保全ゾーン>

- 丹沢大山の山なみのみどりは、「丹沢山麓景観域」を形成し、人々を魅了するだけでなく、水や清涼な空気などを供給する重要な自然的資源です。このため、多様な生態系の維持や土砂災害などに対する防災機能の向上に配慮しながら、県民、企業との協働により保全を図ります。
- 山から河川や里地里山などを経て海に至る豊かで多様な自然と、大山や江の島などの多彩な観光スポットに恵まれた本都市圏域の特徴を生かして、アクセスや回遊性の向上を図ることなどにより、周遊型・体験型の観光・レクリエーションの場としての活用を促進します。

「自立と連携」の方針

《自立に向けた都市づくり》

＜新たなゲート＞（首都圏や全国との交流連携を実現するゲート機能を備えた拠点）

- 新たな「南のゲート」では、東海道新幹線新駅誘致地区を中心とした環境共生モデル都市¹⁴ツインシティを整備し、県土の新たな窓口にあふさわしい都市機能の集積によって新たな拠点の形成を進めます。土地区画整理事業の推進や相鉄いずみ野線の延伸に向けた取り組みとあわせ、「北のゲート」との連携、周辺都市や新たな産業・研究拠点との連携によって地域活力を高めるとともに、エネルギーの有効活用や、物質や水などの広域循環システムの構築を進め、都市圏域全体を環境と共生する都市圏域へと導きます。

＜広域拠点＞（都市圏域全体の自立をけん引する拠点）

- 藤沢駅周辺においては、鉄道3路線が結節する交通利便性を生かし、商業・業務、文化機能の集積を維持しながら、南北一体となった駅施設への改善を図るとともに、老朽化した公共施設などの再整備、商業機能の強化などを図りながら、にぎわいと活力ある都市づくりを進めます。
- 平塚駅周辺においては、住宅、商業・業務機能の充実とともに、土地の高度利用・有効利用などを図りながら、芸術文化などの新たな都市機能の立地を促進するとともに、バリアフリー化された駅前広場やバスターミナルとしての乗り換えの利便性を生かし、中心市街地の集客力と魅力を強化します。また、「南のゲート」を形成するツインシティ整備と連携し、広域的な交流を生かした都市づくりを進めます。
- 秦野駅周辺においては、商業・業務機能や、生活サービス機能などの充実により、交流とにぎわいを創出します。また、内陸側に集積した産業機能や新東名高速道路、国道246号バイパスの整備に伴い新設されるインターチェンジなどを生かしながら、産業振興施策と連携を図ることで、新たな産業の立地を進め、多様な機能が集積する結節点として活力を生み出すとともに、安全、安心、快適な生活を支える拠点づくりを進めます。

＜地域の拠点＞（都市圏域全体の自立を支え、地域における日常生活のニーズにきめ細かく対応する拠点）

- 「湘南台駅周辺」では、交通ターミナルとしての立地を生かし、商業・業務、行政サービス機能とともに、文化、交流機能などを充実することで、多様な都市機能の集積を図ります。

¹⁴環境共生モデル都市

…自然空間との共生を図る土地利用や環境負荷の少ない都市基盤整備を展開するモデル都市。

- 「茅ヶ崎駅周辺」では、都市基盤の整備及び土地の高度利用を推進し、商業・業務、サービス機能などを充実することで、多様な都市機能の集積を図ります。
- 「伊勢原駅周辺」では、土地の高度利用や都市基盤の整備を図り、商業・業務、文化施設などの集積を誘導することで、大山観光の玄関口としてふさわしいにぎわいを創出する空間づくりを進めます。
- 「寒川駅周辺」では、建築物の更新、共同化などにあわせて、広場などのオープンスペースの一体的整備に配慮して土地の高度利用を進め、都市機能の向上を図ります。
- 「大磯駅周辺」では、高齢社会に対応しバリアフリー化を進めるとともに、日常の購買需要を賄う商業や観光など、都市機能の充実を図ります。
- 「二宮駅周辺」では、駅前広場などの都市基盤の整備を推進し、商業・業務機能などの都市機能の更新を図ります。

[新たな地域の拠点]

- 「村岡・深沢地区」においては、JR 藤沢駅～JR 大船駅間の新駅設置に向けた取組みとともに、駅前広場などの都市基盤の整備を進め、大規模工場跡地における新たな研究機能の集積を生かすとともに、隣接する JR 鎌倉総合車両センターの工場跡地を活用したまちづくりと連携しながら、新たな都市拠点の形成を進めます。
- 「辻堂駅周辺」においては、大規模工場跡地を活用し、商業・業務、工業、住宅などの複合的な土地利用転換を進め、多様な都市機能の集積を図ることで、新たな都市拠点の形成を進めます。

《連携による機能向上》

＜県土連携軸＞（都市圏域間・拠点間の交流連携を促進する連携軸）

- 「南のゲート」を生かした全国との交流連携をインパクトとして都市圏域内外の経済・産業を活性化させるため、南北方向の連携軸「相模軸」を構成する「JR相模線」の複線化に取り組むとともに、「さがみ縦貫道路」の整備などを進めることで、「北のゲート」との有機的な交流連携を図ります。
- 横浜方面との連携を強化するとともに、「南のゲート」による全国との交流連携を県土の東西方向へと拡大させていくために、「横浜県央軸」を構成する「相鉄いずみ野線」の延伸に取り組むとともに、「県央足柄軸」を構成する「新東名高速道路」や「国道246号バイパス」の整備、「相模湾軸」を構成する「新湘南バイパス」の整備や「東海道貨物線」の本格的な旅客線化などに取り組みます。

- 横浜方面との交流連携を強化するとともに、広域拠点「藤沢駅周辺」における交通渋滞の緩和を図るため、「横浜藤沢軸」を構成する「横浜藤沢線」の整備を進めます。

＜都市連携軸＞（地域の特性を踏まえた都市づくりを支える連携軸）

（主に都市圏域内外の交流を補完する軸）

- 「南のゲート」や「ツインシティ」への連絡を支え、強化する軸として、「平塚厚木軸」、「平塚愛甲石田軸」、「伊勢原大神軸」、「平塚大神軸」、「海老名寒川軸」、「藤沢寒川軸」を位置づけ、新たなゲートや環境共生モデル都市の機能を、本都市圏域の内外に広めるとともに、拠点間の連携強化を図ります。
- 地域の拠点「辻堂駅周辺」や「寒川駅周辺」と綾瀬方面を結ぶ「辻堂綾瀬軸」や「中原街道軸」を位置づけ、東名高速道路の（仮称）綾瀬インターチェンジによる交流機能を周辺地域に広めるとともに、地域の拠点に集積する公共公益機能や商業・業務機能の交流連携を図ります。
- 大船方面と景勝地・観光地である江の島や湘南港を結ぶ「大船江の島軸」を位置づけ、首都圏を代表する海洋リゾート地である湘南海岸との交流連携を図るとともに、連携軸周辺で計画的に開発された住宅地とターミナル性を持った大船駅を結び、日常生活の利便性の確保を図ります。
- 伊勢原地域から清川村を経て津久井方面に至る「伊勢原津久井軸」を位置づけ、本都市圏域内外の連携強化や、沿線地域における社会経済活動の利便性確保を図ります。

（主に都市圏域内の交流を支える軸）

- 広域拠点「藤沢駅周辺」から地域の拠点「大磯駅周辺」に至る「藤沢大磯軸」を位置づけ、東西方向の県土連携軸である「相模湾軸」を補完するとともに、南北方向の県土連携軸である「相模軸」への連絡を支え、多様な都市機能の交流連携を図ります。
- 広域拠点「平塚駅周辺」と「秦野駅周辺」を相互に結ぶ「平塚秦野軸」、広域拠点「秦野駅周辺」と地域の拠点「伊勢原駅周辺」を結ぶ「秦野伊勢原軸」、地域の拠点「茅ヶ崎駅周辺」と「寒川駅周辺」を相互に結ぶ「茅ヶ崎寒川軸」を位置づけ、公共公益機能や商業・業務機能が集積する広域拠点や地域の拠点間の連携強化を図ります。
- 広域拠点「秦野駅周辺」や地域の拠点「伊勢原駅周辺」の中心市街地を迂回する連携軸として、「秦野環状軸」や「伊勢原環状軸」を位置づけるとともに、「秦野産業軸」や「伊勢原産業軸」を位置づけ、産業活動を支える物流機能の確保などを図ります。

